

建学の精神

- 一、祖国の道義を興し、親の幸福を祈る人格
- 二、礼儀を尊重し、正しい判断力に基づく行動
- 三、潜在能力を抽出しつつ、愛情に導かれる教育

教育目標・教育方針

教育目標

建学の精神(大目標)を基調とし、真に人間尊重の理念にたつて、つねに文化を創造し、国家、社会の平和と福祉に貢献しうる心身ともに健全な人間の育成をはかる。

グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)

1. 熱意と情熱を持ち、ふるさとの活力となることができる。
2. 個性を尊重し、仲間と供に協力し合うことができる。
3. 確かな知識と正しい情報を自分の言葉で説明することができる。
4. 夢の実現に向けて、自らの未来を思い描くことができる。

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)

1. 幅広い知識や教養を見つけるため、多様な選択科目を用意します。
2. 生徒会活動や部活動を活性化し、放課後講座を開設します。
3. Wi-Fi環境を整備し、電子黒板やタブレットなどを活用するICT教育を実施します。
4. 夢を実現する4つのコースを設定し、その後のコース変更にも柔軟に対応します。

アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)

1. 自分の夢を実現するために努力する生徒。
2. 社会に役立つ仕事に就きたい、人のために働きたいと考えている生徒。
3. 自分のやりたいことを見つけたいと悩んでいる生徒。

令和7年度 高岡第一高等学校アクションプラン

1. 生徒の学習意欲を高めると共に、生徒の学力向上を図る。また、ICT教育を推進し、授業への活用の研修を進める。
2. 学校全体として組織的な生徒指導体制を確立し、生徒に基本的な生活習慣を確立させると共に、規範意識の向上を図り持たせ、社会の一員としての自分を自覚する生徒を育成する。
3. 将来を見据えた進路指導に取り組み、生徒に自分自身の個性や適性を理解させ、生徒の希望する進路実現を支援する。
4. 学校行事、部活動への積極的な参加をうながし、社会性・協調性やコミュニケーション能力の育成を図る。
5. 中学校卒業生数の減少を全教職員が認識し、一人ひとりが生徒募集担当であることを意識して行動する。

アクションプラン1

重点項目	学習活動
重点課題	アクティブラーニングなど授業改善をすすめ、生徒の学習意欲を高めると共に、生徒の学力向上を図る。また、ICT教育を一層推進し、授業への活用の研修を進める。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間を昨年度よりも1時間増やす生徒の割合を7割とする。 ・学校や家庭での学習時間が不足していると自覚する生徒の割合を7割とする。 ・意欲的に授業に臨んでいると感じる生徒の割合を7割とする。 ・各種資格、検定の上級取得を目指し、合格者数を増加させる。 ・各教科で、教科の特性に合わせたICT教育のより効果的な活用方法を研究する。
方策	<ol style="list-style-type: none"> ①定期考査の振り返りの際に、学習時間や授業についてアンケートを実施する。 ②自教科のみならず他教科の授業の互見授業参観を2回以上実施し、互見授業参観シートを提出する。また互見授業参観シートをしっかりと書くことにより自分自身の学びを確認する。 ③各授業において、自己評価、振り返りを実施し、意欲・習熟度を高める。 ④各検定受検の機会を増やし、対策を強化する。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全クラスに電子黒板が導入され、電子黒板を利用した授業が一般化した。 ・ICTを用いた授業について、互見授業期間を年2回設けた。 ・授業での課題の配信、回収のオンライン化が定着した。 ・各定期考査最終日に振り返りの時間を設け、自己評価した。
評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚的で分かりやすい授業づくりが可能になった。 ・他教科の授業を参観する機会を設けたことで、授業改善への意識向上が図られた。 ・定期考査後の振り返りを毎回行い、学習時間や理解度を見直す機会を確保した。 ・検定試験の合格率を伸ばせなかった。 ・課題配信・回収のオンライン化も定着し、生徒の提出状況の把握や学習支援が効率化した。
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成度（学習時間・意欲など）を数値で把握し、改善策へつなげる方策を構築する。 ・単なる電子黒板の使用にとどめず、学習効果を高めるためのICT活用モデルを教科ごとに構築する。 ・受検機会の拡大に加え、生徒の習熟度に応じた補習・対策授業など、成果につながる支援が必要。

アクションプラン2

重点項目	学校生活
重点課題	生徒に基本的な生活習慣を確立させると共に、高い規範意識を持たせ、社会の一員としての自分を自覚する生徒を育成する。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ（髪型や制服着用）や挨拶の励行をはじめとし、時間を厳守し、節度ある生活態度を育成する。 ・「ダメなものはダメ」という指導のもと非社会的・反社会的行動の未然防止に努める。 ・交通マナーの遵守を徹底させ、年間交通事故発生件数を0とする。 ・他者を尊重し、いじめを絶対にしない、許さない環境を作り上げ、いじめゼロを実現する。 ・SNSなどの適切な使用方法を身につけさせ、情報リテラシーを育成する。 ・校内美化活動の徹底。
方策	<ol style="list-style-type: none"> ①普段から生徒の様子を注意深く見て、声かけ、相談する頻度を高めるようにする。 ②危機管理のマニュアルを再点検し、日々全職員が認知する機会を設ける。 ③全教員が一丸となって遅刻・服装・マナー等に関する指導に取り組み、イエローカード指導を継続し、遅刻及び服装の乱れの多い生徒については個別指導を徹底する。 ④ネット活用や交通安全に関わる講座やHR、生徒会を通して情報リテラシー、交通安全に関する意識の高揚をはかる。 ⑤学期ごとにいじめアンケートを行い、いじめについて状況を把握すると共に、HRを利用していじめ発生を未然に防止する。 ⑥生徒会美化委員会を中心に掃除用具の点検、交換を行い、よりスムーズに掃除を行い得るように便宜を図る。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・服装・マナーに関する毎朝のチェックとイエローカード指導の継続実施。 ・交通安全・情報モラルに関する講座や動画視聴、HR活動の定期的な実施。 ・学期ごとの「いじめアンケート」実施と、結果に基づく担任・学年団によるフォロー体制の強化。 ・生徒会美化委員会を中心とした校内美化活動の活性化
評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の指導が日常化し、生徒への声かけや相談対応が継続的に行われた。 ・交通安全・情報モラルに関する講座は適切に実施されたが、生徒の実践度には個人差が見られた。 ・いじめアンケートは定期的に行われ、状況把握はできたが、アンケート後のフォローの質にばらつきがあった。 ・美化委員会による道具点検は行われたが、清掃への参加姿勢や教室・共用部の仕上がりにはクラス間で差が見られた。
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の声かけ・確認に加え、生活習慣が改善しにくい生徒への個別支援や家庭との連携を強化する。 ・講話での学びを実際の行動につなげられるよう、具体的な場面想定やロールプレイ、HRでの継続指導を充実させる。 ・いじめ対策について、担任や学年で対応に差が出ないように、フォロー手順の明確化と情報共有を徹底し、未然防止の効果を高める。

アクションプラン3

重点項目	進路支援
重点課題	将来を見据えた進路指導に取り組み、生徒に自分自身の個性や適性を理解させ、生徒の希望する進路実現を支援する。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者、就職希望者共に第一志望への進路の実現を達成する(8割)。 ・生徒個々の実態把握し、適切な進路指導を実践すると共に1ランク上の進路目標を設定し、実現に努める。 ・国公立大学10人以上合格させる。 ・生徒の進路指導に対する満足度90%以上とする。
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・新課程入試、入試制度の周知と生徒への情報提供を徹底し、多様な入試制度に対応する。 ・偏差値やブランドに因らない進路希望を目指す。 ・「進路のしおり」を有効に活用して、生徒一人ひとりにきめ細かい進路指導を実践する。 ・進路指導部と学年が密接に連携をとり、適切な進路行事(各種ガイダンス、講話など)を実施する。また必要に応じて、進路行事の見直し・再検討を行う。 ・全教員が協力しての面接指導、小論文指導、学習指導を実施する。 ・1年生全員にインターンシップを実施し、キャリアデザインの意識向上を図る。 ・進路指導について、卒業時に生徒にアンケートを実施し、生徒の意向を把握する。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して複数回の個別面談を実施し、進路希望・学習状況・適性を把握。 ・早い段階で国公立志望者を把握し、総合型推薦・共通テスト対策・二次対策を個別に設計する。 ・レポート作成、プレゼン発表を行い、経験を自分の進路に結びつける活動を展開した。
評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な進路指導の流れが計画通りに実施され、生徒の進路意識向上に一定の成果が見られた。 ・1年インターンシップ事前事後学習の導入などにより、職業理解が深まり、進路意識向上につながった。 ・企業訪問や個別指導を丁寧に行い、就職希望者に対して安心して準備に取り組める環境を整備した。
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・職業観や大学選択の基準が曖昧で、学習意欲や日常行動が進路目標と結びついていない場面が多く見られるので、新たな進路教材を用い進路学習を強化していく。 ・学習計画の個別化や二次試験対策など、より踏み込んだ学力向上施策が今後の課題として残る。 ・面接指導や小論文指導が担当教員によって差があり、全体として指導水準の統一が課題となる。

アクションプラン4

重点項目	特別活動
重点課題	学校行事，部活動への積極的な参加を促し，社会性・協調性やコミュニケーション能力の育成を図る。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校行事に対して各生徒に役割分担させ、積極的に参加し、満足とする生徒の割合を8割以上とする。 ・積極的に部活動に参加させ、部活動への参加生徒の割合を8割とするとともに、中途退部者を減らしメリハリのある学校生活を送らせる。
方策	<ol style="list-style-type: none"> ①各行事ごとに、アンケートを実施し、生徒の満足度、参加度をはかる。 ②各集会や生徒会による広報活動を通じて、大会日程および成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒のやる気を高める。 ③部活動加入率8割を目指す。 ④担任および顧問は、HRやミーティングを利用し、各行事や大会、日々の活動に対して生徒の意見を発表させる機会を設ける。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事において、事前・事後アンケートを実施することで、生徒の参加意識と満足度を把握し、次回行事へ改善を反映させた。 ・集会や掲示物等を活用して大会日程や活動実績を積極的に広報し、部活動の魅力を共有した。
評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事では、多くの生徒が主体的に参加し、全体として高い満足度が得られた一方、行事によっては一部の生徒の関与が消極的になる場面も見られた。 ・部活動については、広報活動や顧問の働きかけにより加入率は概ね目標に近づいたが、活動や人間関係への不安から中途退部する生徒への十分な対応には課題が残った。 ・行事後アンケートを通し生徒の声を把握できた点は成果であるが、結果を十分分析し、次の取組に生かし切れなかった面もあり、改善につなげる体制づくりが求められる。
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事において、全ての生徒が主体的に関われるよう、役割設定や事前指導を工夫し、参加意識の低い生徒への支援を充実させる必要がある。 ・部活動については、加入促進だけでなく、活動に対する不安や悩みを早期に把握し、相談体制を強化することで中途退部の防止を図ることが課題である。 ・アンケート結果をより効果的に活用するため、分析方法や共有の仕方を工夫し、具体的な改善策として次の活動に確実に反映させる体制づくりが求められる。

アクションプラン5

重点項目	生徒募集
重点課題	中学校卒業生数の減少を全教職員が認識し、一人ひとりが生徒募集担当であることを意識して行動する。
達成目標	・生徒個々への丁寧な指導（学習・生活・進路・部活動）並びに新学習指導要領を踏まえた取り組みが、生徒募集につながることを理解する。
方策	①学校ホームページやSNSを有効活用し、生徒・保護者・地域への情報発信を行う。 ②中学校への学校説明会や体験入学への参加等について広報活動を効果的に行う。 ③進路実績を前面に押し出し、他私学との差別化をはかる。
具体的な取組状況	・学校HPやSNSを活用し、学校行事や部活動の様子、進路実績等を定期的に発信することで、本校の教育活動や特色を生徒・保護者・地域に分かりやすく伝えた。 ・中学校への学校説明会や体験入学に積極的に参加するとともに、教職員が連携して説明内容や広報資料の工夫を行い、本校の魅力を効果的に発信した。 ・生徒一人ひとりに対する丁寧な学習・生活・進路・部活動指導を心がけ、新学習指導要領を踏まえた教育実践を通して、生徒・保護者からの信頼向上につなげた。
評価	B ・学校ホームページやSNSを活用した情報発信により、学校行事や部活動、進路実績を継続的に紹介できたことは成果であるが、更新頻度や内容にばらつきがあり、情報の計画的な発信には課題が残った。 ・中学校説明会や体験入学への参加を通して、本校の教育内容や特色を直接伝える機会を確保できた一方、関係教職員の連携については、さらなる工夫が必要であった。 ・生徒一人ひとりへの丁寧な学習・生活・進路指導を心がけることで、在校生や保護者からの信頼向上につながったが、その取組が生徒募集活動として十分に可視化されていなかった。
次年度への課題	・学校ホームページやSNSについて、更新計画や担当体制を明確にし、継続的かつ戦略的な情報発信が行える仕組みを整える必要がある。 ・中学校説明会や体験入学への参加について、対象校の拡大や内容の充実を図り、教職員間で役割分担を明確にした効果的な広報活動を進めることが課題である。 ・生徒一人ひとりへの丁寧な指導の成果を、具体的な事例や数値として可視化し、生徒募集につながる情報として積極的に発信していく必要がある。 ・全教職員が「生徒募集は日常の教育活動の延長である」という共通認識をもち、日頃から外部への情報発信や広報意識を高められる校内体制の構築が求められる。

